

令和7年度 主題研究について

令和7年5月21日(木)
飯塚鎮西中学校研修部

1 研究主題

自律的に学習する生徒の育成

～学習課題設定の場、意見交流の場、考えを再考する場の工夫を通して～

2 昨年度の反省

生徒が「考える」授業にするためには

- ・日常生活と結びついた場面設定を行い、生徒の「考えてみたい」という気持ちを引き出す
 - ・目的を明確にした小グループでの交流活動
 - ・ロイロノートやGoogle アプリ、動画編集、ドローンなど ICT の効果的活用
 - ・この学習が将来どんなことに役立つのかを生徒に示す
- という手だてが有効であったと考えられる。

生徒が「考える」授業にするために

- ・意見交流の場において、一人の考えをもとに話し合いが進んでしまう
 - ・C・D 層の生徒の考えが活かしていない、考えが記述できない
 - ・ICT、まなボード、プリント等の話しあいツールの適切な活用
 - ・自己決定をする場の設定
- などのことを改善する必要がある。

3 主題の意味

「次代を担い、これからの社会を生きていくためには、誰かに指示されて実行するのではなく、自ら方法を考え、選び、行動し、試行錯誤しながら問題を解決する力が必要となる。」

「自律的に学習する生徒」とは

自分の夢や目標を持ち、その実現のために自ら計画を立て、実践し、時には他者との対話を通して身に付けた知識や視点などを自らの学びと結び付けながら学習の質を高めていくことで自己調整を図りながら目標の達成を目指す生徒のことである。

4 本年度の重点

本年度育成したい資質・能力は、「批判的思考力」「問題解決力」「好奇心・探究心」「困難を乗り越える力」「他者に対する受容・共感・敬意」の5つである。この5つの力を育成するために、本年度は単元計画の中で以下の3つを重点化する。

単元計画の中で

①日常生活と結びついた場面設定（課題解決型学習）、自己決定がある授業づくり

【学習課題設定】

②意見交流の目的と手順を明確にした授業づくり

【意見交流】

③授業前後で考えの変容が見える授業づくり

【考えを再考する】



そのために、単元計画を作成する中で「3つの場」を工夫する。

◎「場」とは何か

空間そのものが何らかの作用（物理的、心理的）をもち、そこに現象を生じさせると考えられるとき、その空間を〈場〉と呼ぶ。教師側の問いかけや手立てなどによって、生徒に考えが生まれたり、考えが変化したりする空間のこと。

①学習課題設定の場

→生徒が日常生活と結びついた場面において、「なぜ?」「どうして?」「どうすれば解決できる?」「どう説明すればいい?」などのように、問いをもつことができる学習課題を設定する。

また、課題を解決するためにはどうすればいいのか、見通しをもたせる場を設定する。

- ・ 問いとは…その授業時間のなかで、生徒がもつ「疑問」のことであり、教師から発問や質問として問いかけられることによって、生徒が意識するものである。問いには生徒の思いが込められており、能動性をもっている。

【個別最適な学びに向けて ～『選択肢』と『自己決定』を取り入れた授業づくり～】

『「令和の日本型教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）』（中央教育審議会第228号）において、子どもが「個別最適な学び」が進められるように、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子どもが自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められる。

(1) 仮説

授業者が選択肢を与え、生徒自ら自己選択し学習を進めることで、学力低位層の生徒でも主体的に学習に取り組むことができるようになる。

(2) 実践例

ア 学習課題を3つに分け、個々の興味・関心・習熟度に応じて自己選択させる。

イ メインの学習課題を共有した後、視点を3つに分け、どの視点から考えるのか自己選択させる。

ウ 学ぶ順番や学習方法、表現方法を自己選択させる。（まなボード、ICT、学習プリント）

エ 賛成・反対など2択の学習課題を準備し、どちらの立場で考えるのか自己選択させる。

(3) 留意点

「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、「協働的な学び」を充実させていく。その際、集団の中で個が埋没してしまうことがないよう、子供一人ひとりのよい点や可能性を生かすことで、異なる考えが組み合わせたり、よりよい学びを生み出していけるようにする。

②意見交流の場

→生徒が自分の考えをもったあとに、考えを広げたり深めたりするための場を設定する。

交流の目的をもたせた上で交流の場を設定する。

・ 交流の目的の具体的な例

例1：自分とは違う考えにふれるための交流の場

例2：さまざまな考えの中からよりよいものを1つ選ぶ場

例3：協力して問題解決をするための場

例4：全員の考えを結合して、新しいものを生み出すための場 など

③考えを再考する場

→意見交流のあとに、考えを再考する場を設定する。その際、自分の考えに根拠をもたせる手立て、C評価（書けない、考えがもてない）生徒に対する手だてをうつ。

その際、自分の考えの変容が分かるような学習プリントや振り返りカードを準備する。

（例）根拠が明確でない生徒には「問い返しの発問」（なぜ、どうして?）を行う。

C,D層の生徒には、「モデル文」や「ヒントカード」などを提示することで自分の考えを文章で表現できるように補助する。

それぞれの場において、より考えを広げることができるように、タブレットを利用していく。

5 検証の方法

- 提案授業、研究授業における分析
（事後研修会や参観者の参観シート，授業者の振り返りシートによる内容分析）
- 日常的な授業における実践とその分析
- 授業アンケート（教師・生徒）の分析
授業アンケート すべての項目において、平均3・5以上を目指す

6 主題研究の年間計画

月	内 容
5	○ 本年度の主題研究についての提案
6	○ 提案授業および協議会の実施 ○ 夏期休業中の校内研修の計画
7	○ 8月の校内研修の準備
8	○ 校内研修（主題研究・一般研修）
9	○ 研究授業および協議会の実施
10	
11	○ 研究授業および協議会の実施
12	
1	○ 1年間の取り組みに関する振り返りアンケートの実施・集約
2	○ 研究のまとめ作成
3	○ 次年度の研究計画の作成

※個別の授業・検証
については別途
提示

7 研究授業について

(1) 提案授業について

提案授業および事後研修会を実施し，研究授業や個々の授業実践へ繋げる。

・提案授業者：森光 一成先生

日時：6月4日（水）5校時

※全職員で参観して研修を深めるために，授業当日，当該学級以外は自習とする。

(2) 研究授業について

2学期に研究授業（授業公開）を行い，提案授業と同様に事後研修会を実施する。

- ・授業者、日時，場所等は未定。

(3) 日常の授業実践について

提案授業，研究授業，事後研修会をもとに，授業実践を行う。各個人で実践した際の授業構想シート，生徒の記述，実践の記録などは各個人で保管し，振り返りができるようにしておく。それらを集約・分析し，研究のまとめを行う。